

第41期 決算説明資料

自 平成18年4月 1 日
至 平成19年3月31日



【会社名】 株式会社エノモト

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【コード番号】 6928

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 保雄

【問合せ先】 取締役管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

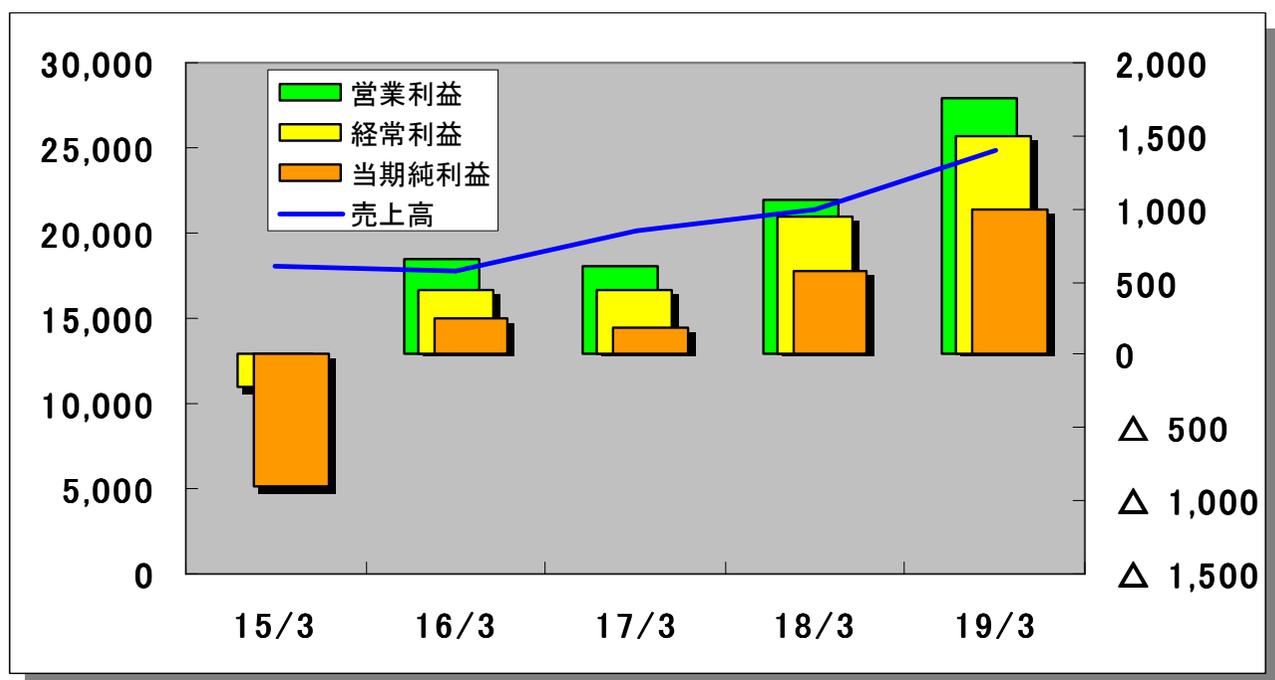
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154番地19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



当期のご報告

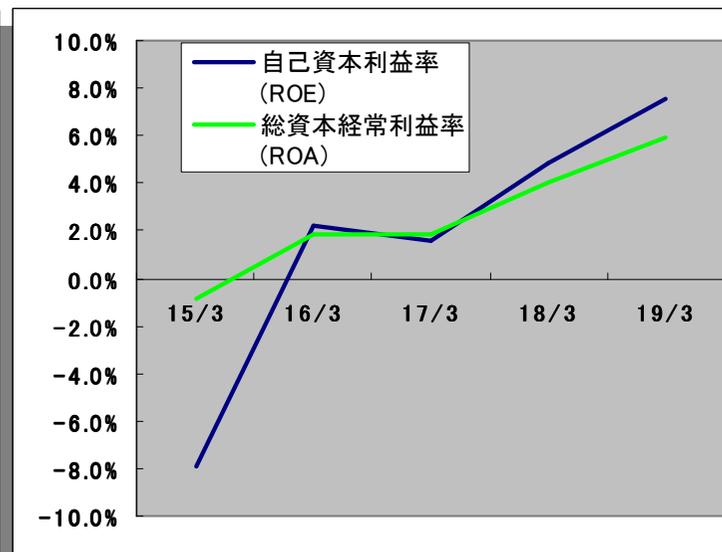
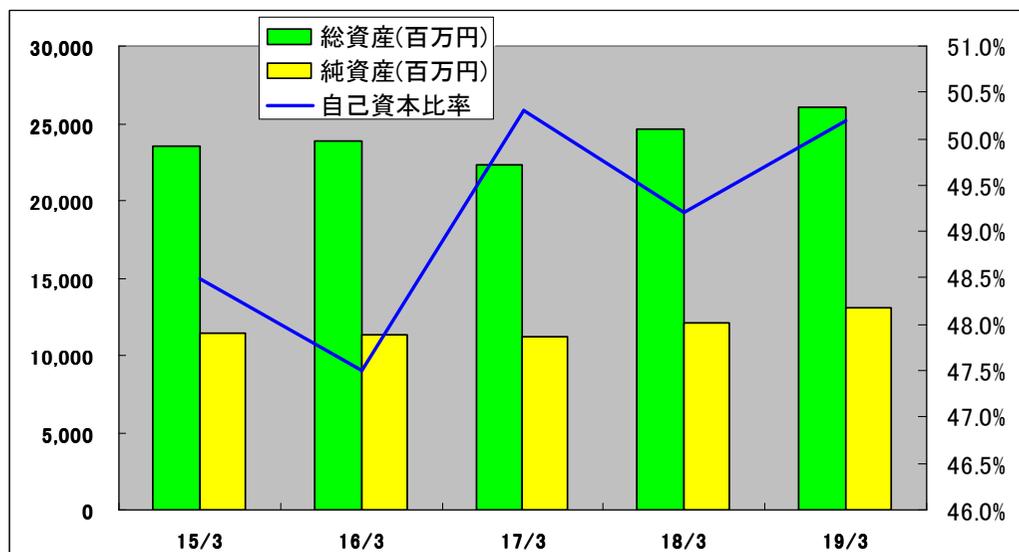
■連結業績の推移



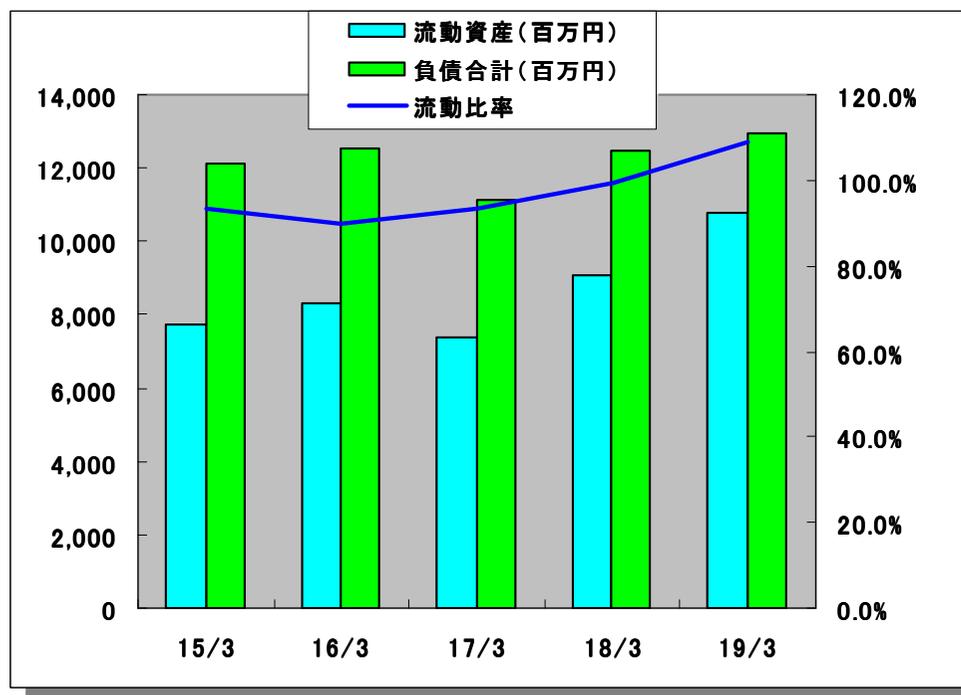
百万円

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	前期比
売上高	18,009	17,821	20,176	21,405	24,874	16.2%増
営業利益	1	652	600	1,061	1,755	65.5%増
営業利益率	0.0%	3.6%	3.0%	5.0%	7.1%	2.1P増
経常利益	△212	450	442	943	1,503	59.3%増
経常利益率	-1.2%	2.5%	2.2%	4.4%	6.1%	1.7P増
税引前当期純利益	-907	255	182	581	1,003	72.6%増
税引前当期純利益率	-5.0%	1.4%	0.9%	2.7%	4.0%	1.3P増

■ 財政状態



	百万円				
	15/ 3	16/ 3	17/ 3	18/ 3	19/ 3
総資産(百万円)	23,541	23,875	22,340	24,572	26,044
純資産(百万円)	11,408	11,332	11,226	12,088	13,083
自己資本比率	48.5%	47.5%	50.3%	49.2%	50.2%
自己資本利益率(ROE)	-7.6%	2.2%	1.6%	5.0%	8.0%
総資本経常利益率(ROA)	-0.9%	1.9%	2.0%	4.0%	5.9%



	百万円				
	15/ 3	16/ 3	17/ 3	18/ 3	19/ 3
流動資産(百万円)	7,759	8,296	7,402	9,057	10,783
負債合計(百万円)	12,133	12,542	11,114	12,483	12,961
流動負債計(百万円)	8,301	9,207	7,908	9,115	9,914
流動比率	93.5%	90.1%	93.6%	99.4%	108.8%

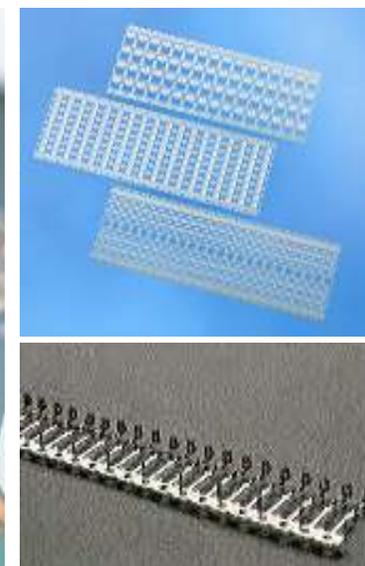
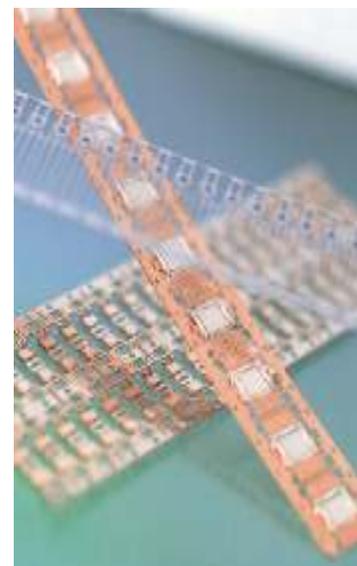
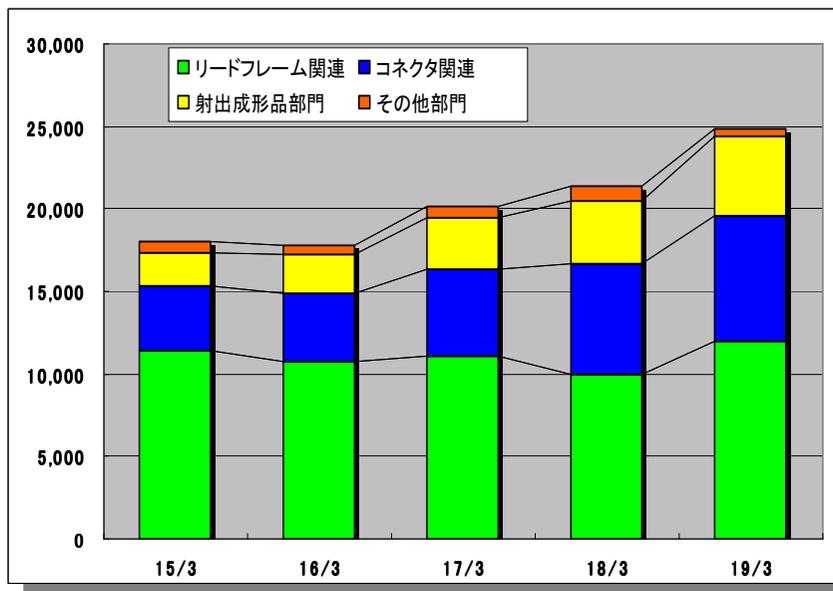
当連結会計年度におけるわが国経済は、中東情勢の不安定化と中国での需要増加により、原油と非鉄金属等の原材料価格の高止まりという懸念材料があったものの、円安基調を背景として輸出の増加、企業収益の改善による設備投資の増加や雇用情勢の改善が進み、景気は総じて緩やかながら回復基調で推移いたしました。海外経済におきましても、中国を筆頭とするアジア地域においては引続き高い成長率を持続させており、米国の不動産分野等の一部業種に経済的な不安定要素を抱えているものの、世界経済全体で見るとほぼ全域にわたり、概ね堅調に拡大する傾向にありました。

このような環境下、当社グループの属する電子部品業界におきましては、前期よりパソコン、携帯電話、LCD・PDP等の薄型テレビ、デジタルオーディオプレーヤー等のデジタル家電をはじめ、車載機器向け部品の需要が高水準で推移いたしました。また、期後半にはコネクタの一部商品において在庫調整の動きが見られたものの、通年にかけて当社の主力商品であるLED等のオプト関連部品が車載機器向け、アミューズメント機器向けを中心に堅調に推移を致しました。

このような状況の下、当社グループは、現在コア事業として据えているLED部品、コネクタ用部品の製造に経営資源を集中し、積極的な受注拡大、新製品の開発、新規顧客の開拓等を進めて参りました。また、全グループをあげて、顧客ニーズに沿った最適地生産体制の充実を推進、生産性の向上及び高品質のモノづくり体制構築に向けて一層の努力を続けて参りました。

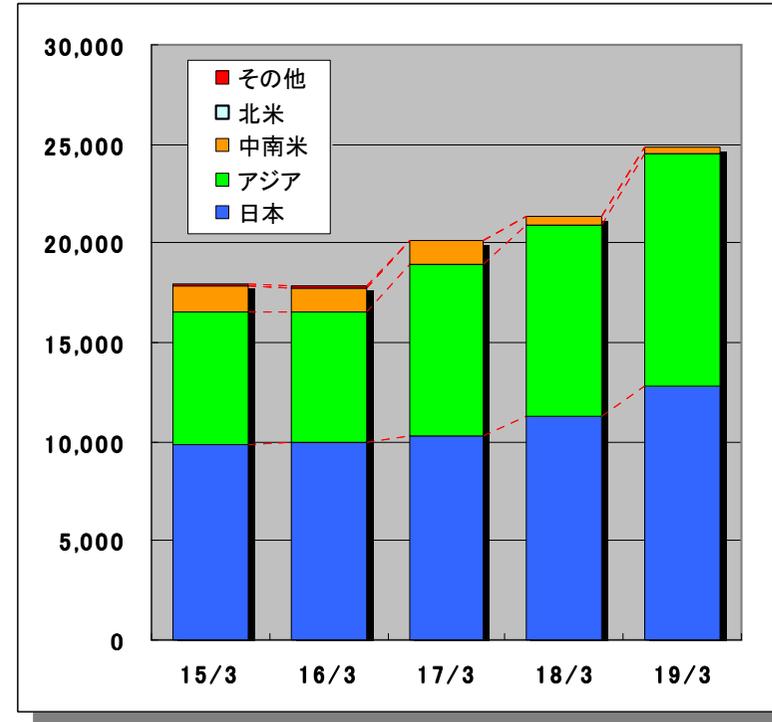
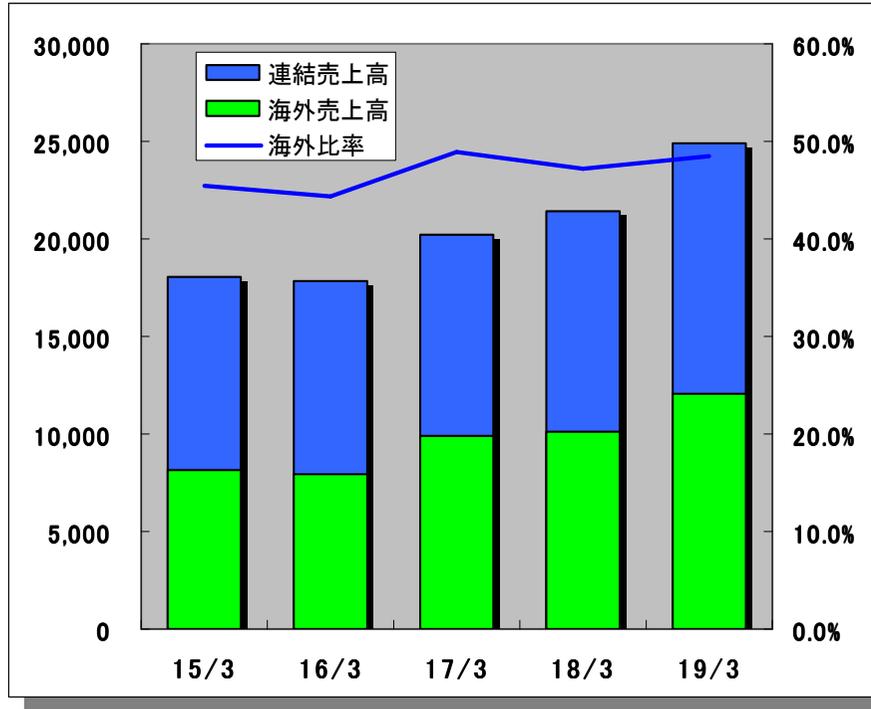
その結果、当連結会計年度の売上高は248億7千4百万円(前連結会計年度比16.2%増)、経常利益15億3百万円(同59.3%増)、当期純利益10億3百万円(同72.6%増)となりました。

■部門別売上高



		15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	百万円 前期比
金属プレス品 部 門	リードフレーム関連	11,472	10,752	11,029	10,006	11,925	19.1%増
	コネクタ関連	3,887	4,098	5,325	6,710	7,652	14.0%増
	計	15,360	14,850	16,354	16,717	19,578	17.1%増
射出成形品部門		1,961	2,361	3,120	3,817	4,800	25.7%増
その他部門		687	609	700	871	495	43.0%減
		—	—	—	—	—	—
合計		18,009	17,821	20,176	21,405	24,874	16.2%増

■ 地域別売上高



百万円

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3
連結売上高	18,009	17,821	20,176	21,405	24,874
海外売上高	8,202	7,900	9,868	10,091	12,043
海外比率	45.5%	44.3%	48.9%	47.1%	48.4%

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3
日本	9,806	9,921	10,307	11,314	12,831
アジア	6,712	6,591	8,687	9,581	11,695
中南米	1,310	1,196	1,128	469	339
北米	36	37	20	36	8
その他	143	74	32	3	0

① 金属プレス品部門

当部門は、半導体用リードフレーム及びコネクタ用部品が主なものであります。車載、デジタル家電、携帯電話向け部品の需要が高水準に推移いたしました。このような状況下、ユーザーニーズに応えるべく、微細加工技術の向上と生産能力の拡充に努めて参りました。その結果、半導体用リードフレームの売上高は、119億2千5百万円(前連結会計年度比19.1%増)、コネクタ用部品の売上高は、76億5千2百万円(同14.0%増)となりました。よって当部門の売上高は、合計で195億7千8百万円(同17.1%増)となりました。

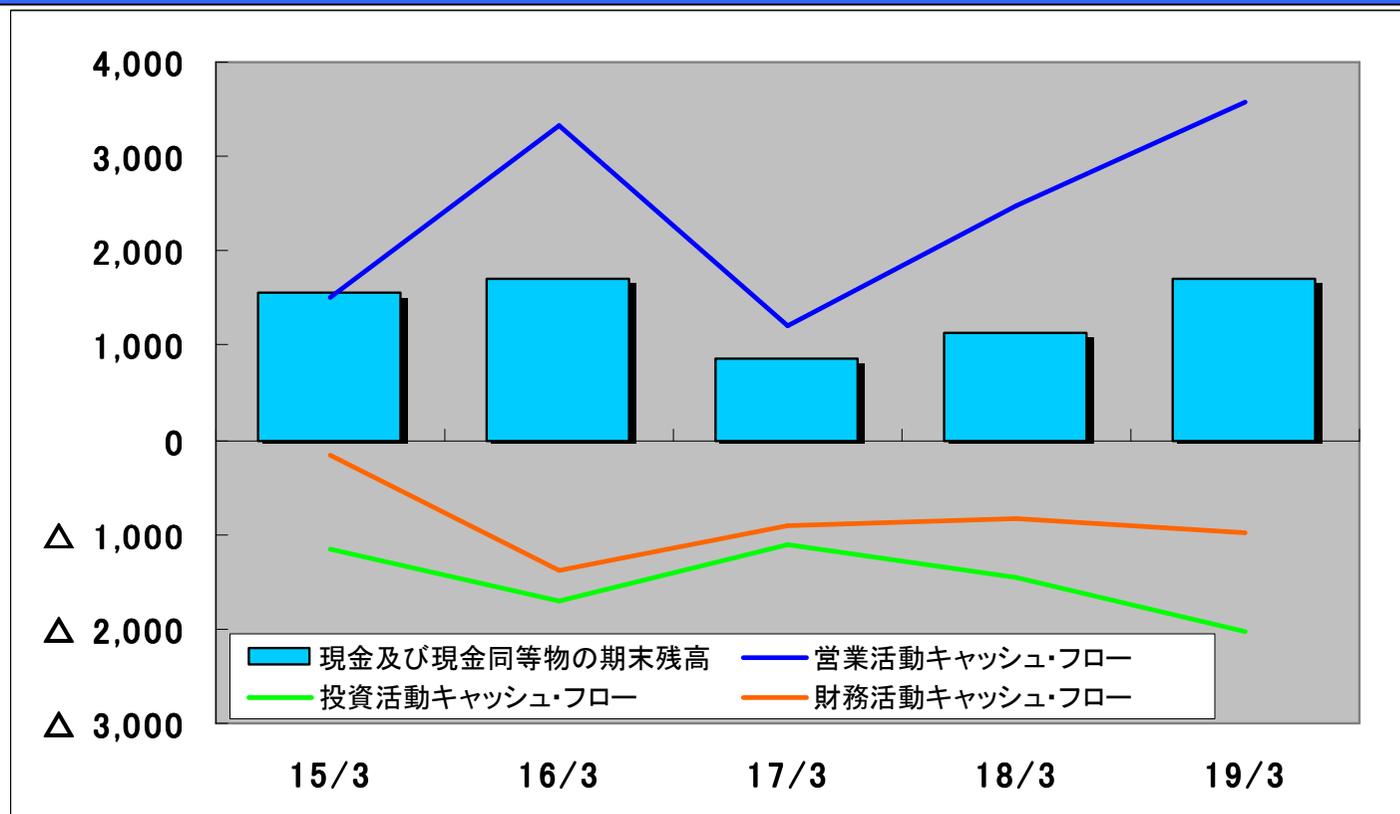
② 射出成形品部門

当部門は、LED用部品及びコネクタ用部品が主なものであります。LED用部品におきましては、車載向け、遊戯向け等の表面実装タイプの需要が拡大を続けており、コネクタ用部品におきましては、搭載機器の小型化の進行によりマイクロピッチ品の需要が増加しております。この部門の売上高は、48億円(同25.7%増)となりました。

③ その他部門

当部門は、機械要素品と医療器具が主なものであります。機械要素品につきましては、中長期経営戦略に基づき、前年6月をもって事業から撤退いたしました。医療器具といたしましては、血液検査キットが主なものであります。医療器具につきましては、現在、市場において商品の評価を受けている段階であり、業績への貢献には、まだ時間を要するものと思われれます。この部門の売上高は、4億9千5百万円(同43.0%減)となりました。

■ キャッシュ・フロー



百万円

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,516	3,325	1,207	2,490	3,576	43.5%増
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,157	△1,705	△1,114	△1,464	△2,029	38.6%増
財務活動によるキャッシュ・フロー	△150	△1,374	△889	△835	△994	19.0%増
現金及び現金同等物の期末残高	1,568	1,720	872	1,132	1,715	51.4%増

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ5億8千2百万円増加し、当連結会計年度末には17億1千5百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

○営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は35億7千6百万円(前年同期比43.5%増)となりました。これは税金等調整前当期純利益13億5百万円及び減価償却費16億8千8百万円等による資金の増加によるものであります。

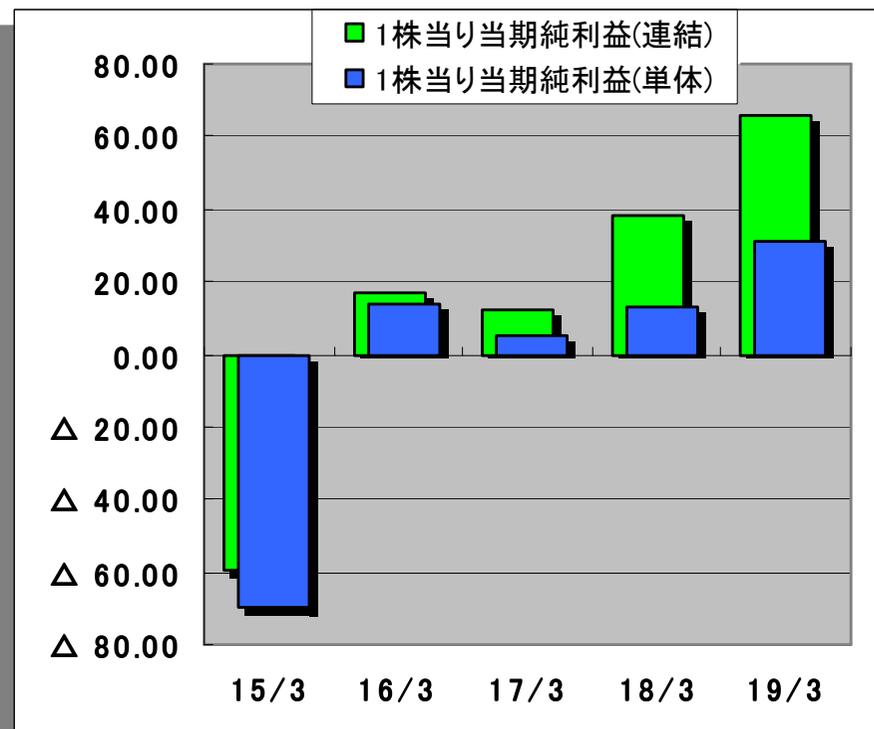
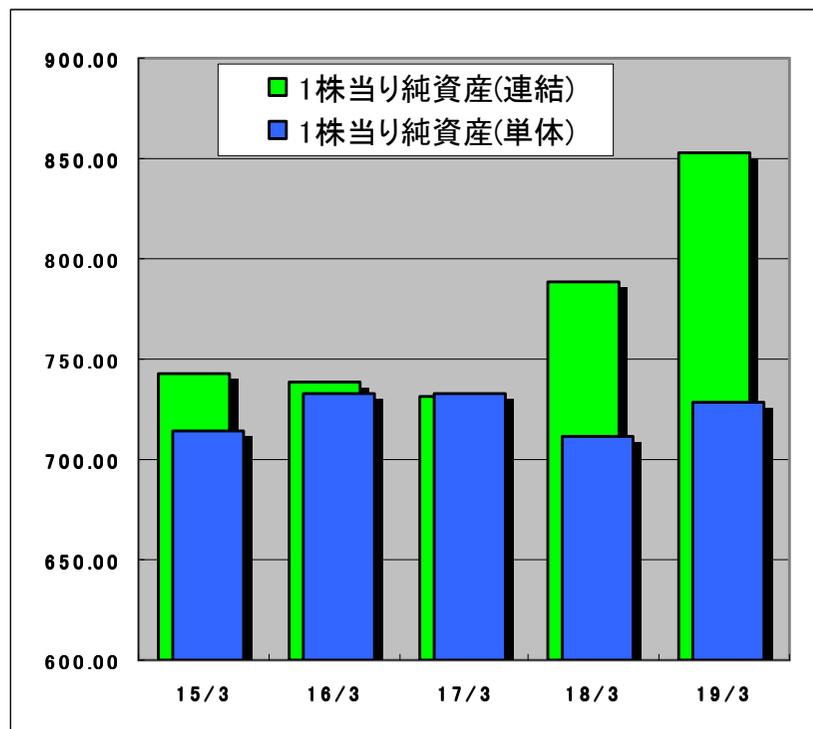
○投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は20億2千9百万円(同38.6%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得22億1千5百万円及び有形固定資産の売却による収入2億9百万円によるものであります。

○財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は9億9千4百万円(同19.0%増)となりました。これは主に短期借入金の純減少額3億6千8百万円、長期借入金の純減少額3億2千1百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出1億3千4百万円及び配当金の支払1億6千8百万円によるものであります。

■ 1株当り指数



円

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3
1株当り純資産(連結)	743.45	738.68	731.81	788.07	853.01
1株当り純資産(単体)	714.32	733.43	732.77	711.52	729.00
1株当り当期純利益(連結)	△59.15	16.65	11.92	37.90	65.42
1株当り当期純利益(単体)	△69.84	13.54	5.20	13.32	31.05

○利益配分に関する基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。内部留保資金につきましては、電子部品業界における技術革新に対応するためタイムリーな製品開発に努め、成長に向けての有効な投資に活用してまいります

当期の1株当たり期末配当金は9円を予定しており、先の中間配当金と合わせた年間配当金は、前期に比べて6円増配の15円となります。

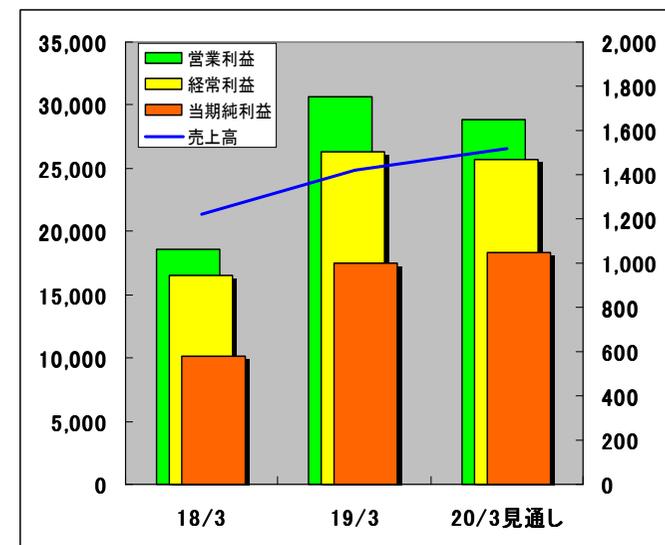
次期の見通し

■ 通期業績予想

● 連結

百万円

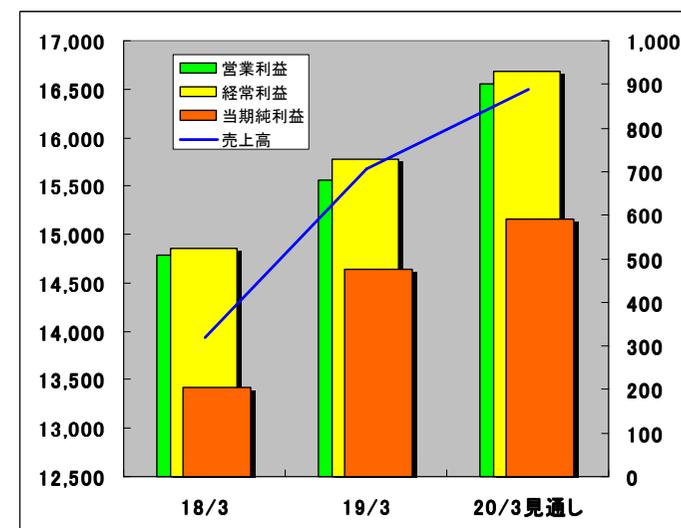
	19/3	20/3 見通し	前期比
売上高	24,874	26,500	6.5%増
営業利益	1,755	1,650	6.0%減
営業利益率	7.1%	6.2%	0.8P減
経常利益	1,503	1,470	2.2%減
経常利益率	6.0%	5.5%	0.5P減
当期純利益	1,003	1,050	4.6%増
当期純利益率	4.0%	4.0%	—



● 単体

百万円

	19/3	20/3 見通し	前期比
売上高	15,674	16,500	5.3%増
営業利益	682	900	31.9%増
営業利益率	4.4%	5.4%	1.0P増
経常利益	728	930	27.6%増
経常利益率	4.7%	5.6%	0.9P増
当期純利益	476	590	23.9%増
当期純利益率	3.0%	3.6%	0.6P増



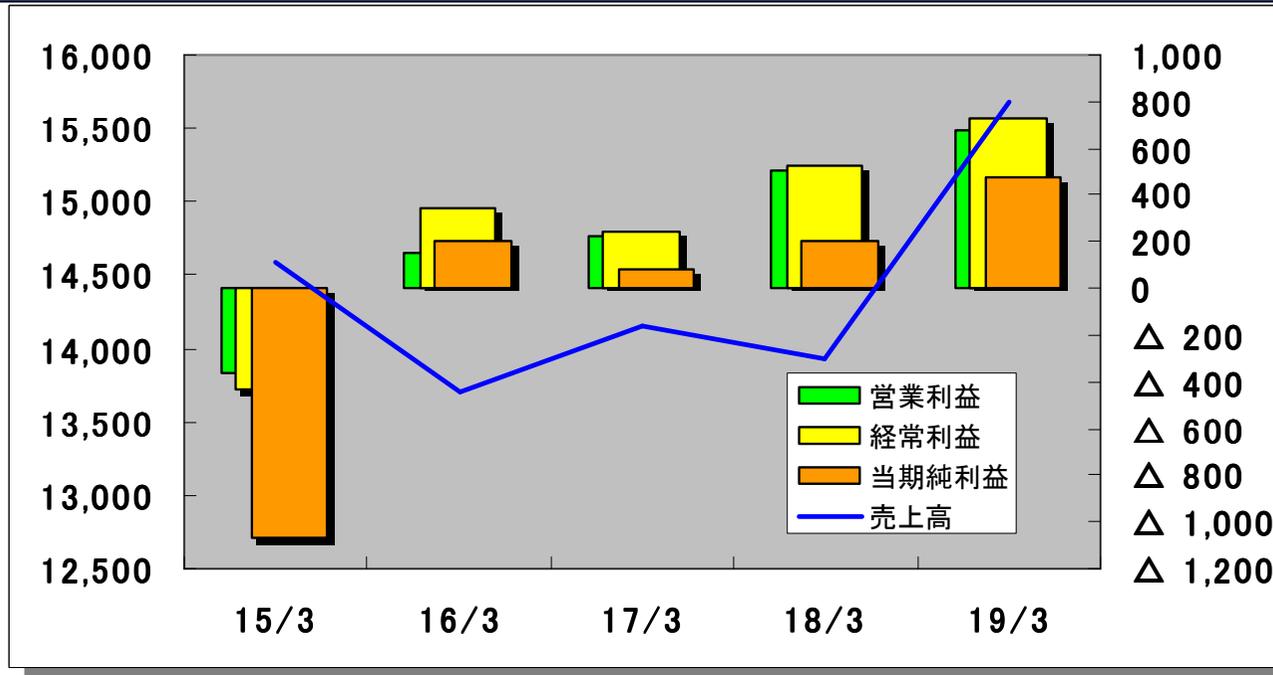
今後の見通しにつきましては、米国の一部業種に不安定要素を抱えるものの、中国を中心としたアジア諸国にて高水準の経済成長が持続する一方で、欧州経済についても底堅い成長が期待できることから、今後も世界経済全般としては堅調な成長を遂げると予測します。また、当社グループの属する電子部品業界におきましては、海外への生産拠点のシフト、価格競争の激化、一部メーカーにおける部品の内製化への動きが今後とも加速していくものと予測されますが、コンピュータ、携帯電話向け需要にデジタル家電、自動車向け需要が加わり市場全体としては拡大基調にあるものと思われれます。成長を続ける電子部品業界ではありますが、競争は一層熾烈になってきております。

また、今後につきましても、銅・ニッケル価格の高騰が継続する様相を呈しており、コストアップの大きな要因となるリスクを抱えての推移となります。

このような環境下、営業力・技術力の更なる強化を図ると共に社員の意識改革及び内部統制の強化を進める事により、経営の質的向上を図って参る所存であります。先行き引き続き厳しい状況ではありますが、次期の連結売上高は265億円（前期同期比6.5%増）、営業利益は16億5千万円（同6.0%減）、経常利益は14億7千万円（同2.2%減）、当期純利益は10億5千万円（同4.6%増）を見込んでおります。

補足資料

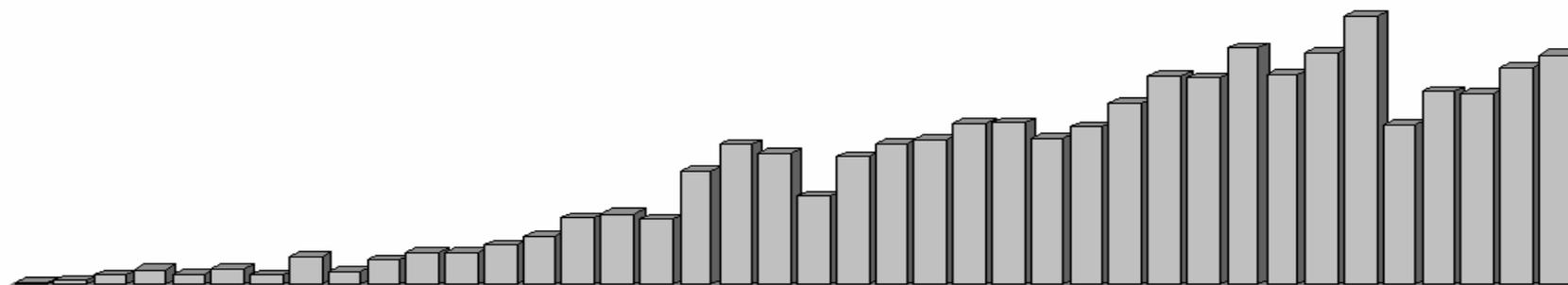
■単体の業績推移



百万円

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	前期比
売上高	14,584	13,701	14,152	13,931	15,674	12.5%増
営業利益	△360	148	218	507	682	34.5%増
営業利益率	-2.5%	1.1%	1.5%	3.6%	4.4%	0.8P増
経常利益	-433	339	244	523	728	39.3%増
経常利益率	-3.0%	2.5%	1.7%	3.8%	4.7%	0.9P増
当期純利益	△1,071	207	80	204	476	133.0%増
当期純利益率	-7.3%	1.5%	0.6%	1.5%	3.0%	1.5P増

当社グループは市場と顧客の情報を迅速かつ的確に把握し、顧客ニーズに対し付加価値の高い製品や情報の提供に努め、相互に利益を享受することを通じて、信頼関係を深め、将来にわたり安定的な成長と収益基盤の確立を目指しております。



①グローバル供給体制の確立

近年、電子部品業界は製品の適地生産・適地供給が強く求められており、そのニーズに対応するため、品質やサービスのレベルを向上させながら、調達・生産・販売の最適化を図るべく、グループ全体での分業・供給体制の強化を進めて参ります。



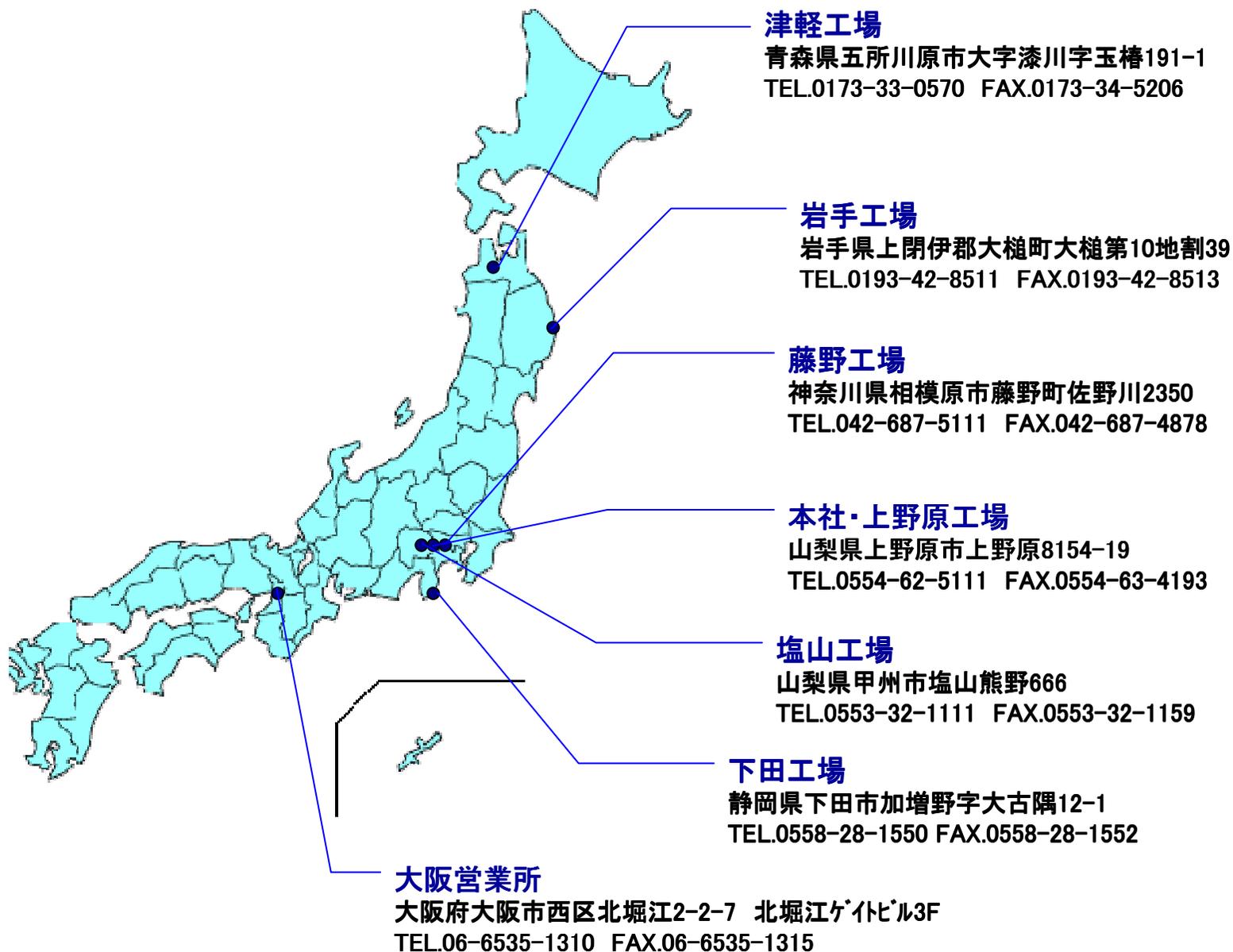
②事業基盤の確立

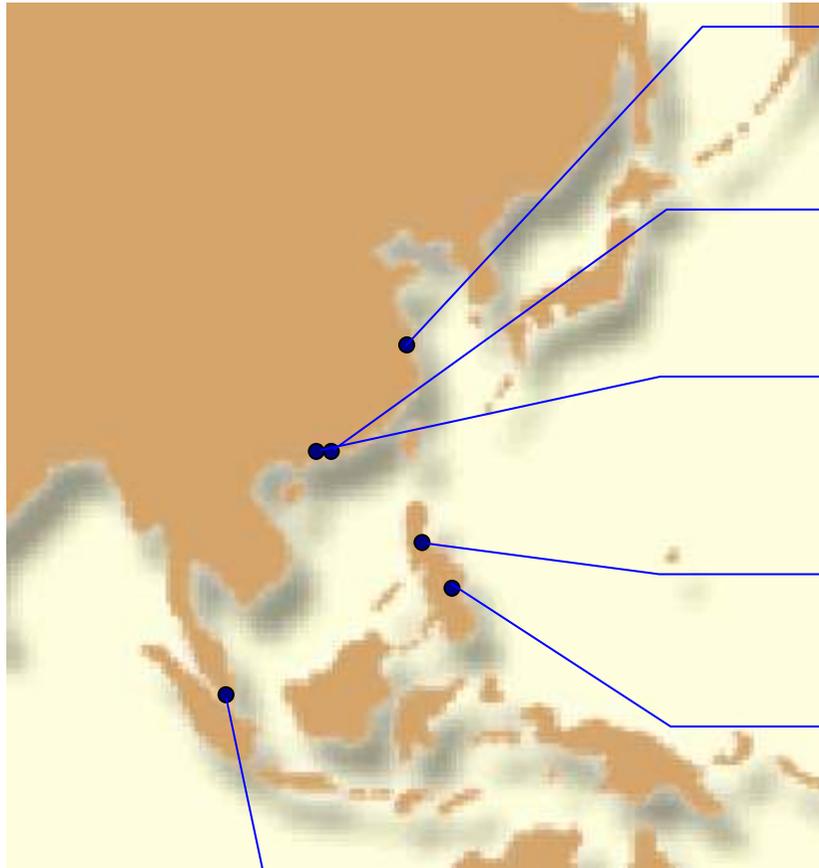
国際競争が激化に伴い製品価格の低下が続く中、当社は高付加価値品への転換を図るべく、営業力、技術力の強化を図って参ります。

現在、培ってきた微細加工技術・インサートモールド技術を基に、次世代の光源として注目をあびているLED、電子機器の小型化に伴い需要の高まっている狭ピッチコネクタへの積極的展開を進めております。

また、新規分野として、医療関連製品への取り組みも進めており、今後拡大を図って参ります。







ENOMOTO WUXI Co.,Ltd.

江蘇省無錫市無錫国家高新技術産業開發区96号-C
TEL.+86-510-5345222 FAX.+86-510-5344008

ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd

香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.

広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-533-5111 FAX.+86-760-533-5113

ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.

PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

**ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING INC.
CEBU OPERATIONS**

Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington
Road, Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.

30Loyang Drive,Singapore 508945
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。